

迎古  夢旅 4494 : 立待岬にて③ 170

石川啄木の歌集「一握の砂」から、話が脱線。誰もが体験するだろう「初恋」
「もう恋なんかしたくない」この文句で、検索すると、
矢沢永吉「夏の終わりに」藤田麻衣子「もう恋なんてしない」その他が、紹介されている。

聞いても、ピンとこない。 齢なのか、時代が変わってしまったのか。
私の心に、響かない。仕方がないことなのだろうが、響かなくて、それでいいと思う。

私は私。^{クラーク}久楽の世代には、久楽の世代の楽しみ方がある。





函館市内へは、その後、思い出の地に寄り道したこともあって、夜道になった。

ビジネス時代は、カラオケも楽しんだ。石原裕次郎「北の旅人」他。

少し、小雨にも降られたが、港町夜景を楽しみ、その後、青函連絡船・出航の朝に備えた。

ひと時だが、右と左に。We can not depart without meeting (会うは別れの始め)